

## 「火事を防ぐ ～消火栓が消防署と地域とをつなぐ～」

4年 社会科

## I 実践の目指しているもの

## 【単元の特性・特徴】

本単元は学習指導要領の内容（４）ア・イにあたる。火災について、調査したり、資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人や地域の人々の工夫や努力を考える学習である。

## 【教科における学びの積み上げ】

—「地域の一員としての自覚」を単元を越えて育てていく—

本単元までの「水はどこから」「ごみはどこへ」「事件・事故のないまちをめざして」「雪とくらす」の学習では、単元の終末場面で地域の人々が関係機関とどのような協力的活動をしているのか、また、それにどんな意味があるのかを考えてきた。本単元はそのような学習の積み上げを生かし「地域の一員として自覚」を育てていく。

## II 研究の内容

## 1 題材名（単元名）

【第8単元】「安全なくらしとまちづくり」・・・【中単元2】「火事をふせぐ」

## 2 題材の目標（単元の目標）

- 火災から地域の安全を守る活動に関心をもち、意欲的に調べている。 【関心・意欲・態度】
- 人々の安全を守るための関係機関の働きと、仕事に従事している人や地域の人々の工夫・努力の大切さを考え、適切に表現している。 【思考・判断・表現】
- 消防士から話を聞いたり、身の回りの消防施設を調査したりして、火災から人々の安全を守る活動について必要な情報を集め、資料を読み取っている。 【技能】
- 火災から人々の安全を守るために関係機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとったり、地域の人々が消防署と協力して火災発生の防止に努力したりしていることを理解している。 【知識・理解】

## 3 題材の指導計画（7時間扱い）・単元構成など

## 〈1時間目〉

- ・教科書の資料（火事の様子が描かれたイラスト）から火事の時に働いている人やその様子について話し合い、「火事が起きた時、どんな人がどのような働きをしているのだろうか？」という単元の学習問題をつくり、学習計画を立てる。

## 〈2、3、4時間目〉

- ・校内、校区内にある消防施設の数や様子について調べ、地図にまとめる。
- ・消防署の出前授業（教えてファイヤーマン）を通じて消防の仕事や「早く」「確実に」消火するための工夫や努力について調べ、まとめる。

## 〈5時間目〉

- ・地域の消防施設の数や散らばりの意味について考え、消防施設は計画的に地域の安全を守るために配置されていることを理解する。

## 〈6時間目（本時）〉

- ・消防士が消火栓の雪かきをしていることの意味を考え、地域の安全のために消防署と市民とが協力することの大切さを理解する。

## 〈7時間目〉

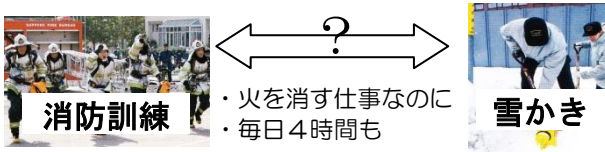
- ・消防団が組織されていることの意味を考え、自分たちの手で地域の安全を守ることの大切さを理解する。

#### 4 本時について

##### (1) 本時の目標

- ・消防士が消火栓の周りの雪かきを毎日することの意味を考えることを通して、早く・確実に火を消すための工夫を理解し、さらに、市民が協力することでその工夫がより確実なものになることを考え、適切に表現している。【思考・判断・表現】

##### (2) 本時の展開 (6/7)

場	子どもの意識の流れと学習活動	教師のかかわり
つかむ	<p>前時までに消防士の方々は「早く」「確実に」消火活動をするために着替えや出動方法の仕組を学習している。また、前单元では札幌市の除雪の仕組やよりよい除排雪のありかたについて学習している。</p> <p>火を消す仕事をする消防士が消火栓の周りの雪かきをしている理由について問題意識をもつ</p> <p>○消防士の仕事について考える【話す】</p>  <p>消防士さんたちは消火栓の周りをどうして毎日雪かきするのだろうか？</p>	<p>【ICT③資料の提示・共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火栓の周りの雪かきを毎日行っていることへ問題意識を高めるために、消防士の代表的な仕事（訓練）と比較する。</li> <li>・学習問題に対して見通しをもつことができるようにペア交流の後、自力解決の時間をとる。</li> </ul>
わかる	<p>消火栓の周りを毎日雪かきする理由を既習と結び付けて考え、「早さ」「確実さ」の2点から捉える</p> <p>○毎日除雪をする理由を考え、交流する【話す・聞く】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【早く火を消す】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火事の時に雪かきをしないで済む</li> <li>・被害を少なくすることができる</li> <li>・すぐに消火栓を見つけることができる</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【確実に火を消す】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも通りに活動できる</li> <li>・どこでも消火活動ができる</li> <li>・点検もできる</li> <li>・いつでも使える</li> </ul> </div> </div> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">命を守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く、確実な消火活動の意味をより具体的に捉えることができるように、「早さ」「確実さの」それぞれのよさが浮き彫りになるようにかかわる。</li> </ul>
たしかにする	<p>市民が雪かきに協力することのよさを消火活動の「早さ」「確実さ」と結び付けて考える</p> <p>雪かきをする消火栓は549か所もあるけど、消防士さんたちだけで全部できるのかな？</p> <p>・市民が協力すればよいのでは？</p> <p>・消火栓を除雪しているのを見たことがあるよ。</p> <p>○市民が除雪し協力する意味について考え、交流する【話す・聞く】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【消防士】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く・確実に</li> <li>・安心して出動ができる</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【市民】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火栓の雪かき</li> <li>・道路の雪かき</li> <li>・ルールを守る</li> </ul> </div> </div> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em; font-weight: bold;">もっと安全に</p> <p>万が一に備え、毎日、消火栓の周りを雪かきし、早く・確実に火を消すことができるようにしているんだね。市民が協力して雪かきをするともっと安全なまちになるね。</p>	<p>【ICT③資料の提示・共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の防火活動への協力へと視点を移すことができるよう、消防署が担当する消火栓の数や地域を示す地図を提示し、消火栓周りの雪かきを消防士だけで行うことの難しさに気付かせる。</li> <li>・市民が協力することのよさを消火活動の「早さ」「確実さ」と結び付けて考えることができるよう、消防士の他の仕事や火事が起きた時の動きなど、具体的な場面を想起させるようにする。</li> <li>・防火活動に参画する意識の定着を図るために、児童の振り返りを意図的に取り上げる。</li> </ul>
本時の目指す子どもの姿	<p>消防士が消火栓の雪かきを毎日行うことの意味を「早く」「確実」な消火活動を行うための工夫として捉え、さらに市民の協力によってより消火活動の確実さが増すことを考え、適切に表現している。</p>	

## 5 実践のポイント

45 分間の授業の中で、子どもたちが問いをもち、既習を活用しながら追求していくために授業を3つの場で構成し、その場ごとのねらいを明確にして学習を展開した。

〈つかむ場〉

単元での学びの中で「消防士さんは火事に備えいつも訓練している」という見方や考え方をもった子どもたちに、「冬の1番の仕事は消火栓の雪かきである」という事実を提示する。そうすることで、消火栓の雪かきの意味へと問題意識をもたせる。

〈わかる場〉

消火栓の雪かきの意味を「早く・確実な消火活動のため」と捉えることができるようにする。そのために、消防士の方へのインタビュー活動で得た学びを引き出したり、毎日雪かきを行う必要性をゆさぶったりして具体的に考えることができるようにする。

〈たしかにする場〉

消火栓の雪かきの意味を理解した子どもたちに、消防署が雪かきを担当する消火栓の数を提示する。そうすることで、市民が消防活動に協力する価値や必要性に気付かせていく。また、防火活動に協力できる身近な方法を考えさせていく。

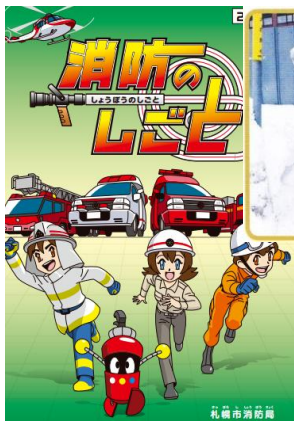
ふるさと札幌の学びの実現のために

子どもたちが「札幌が好き」と思うのはどんなときだろうか。本実践では、雪国ならではの消防署と市民とのつながりに着眼し、「消火栓の雪かき」という社会的事象を教材化した。子どもたちは、自分たちのくらしが様々な人々によって支えられていることに気付くことで、地域に対する誇りや愛着をもつのだと考える。「ふるさと札幌の学びの」の実現のためにも、本時だけでなく、どの単元でも「地域社会の一員として自覚」を育むような教材化を大切にすべきだと考える。

## Ⅲ 実践のためのワークシート・資料例

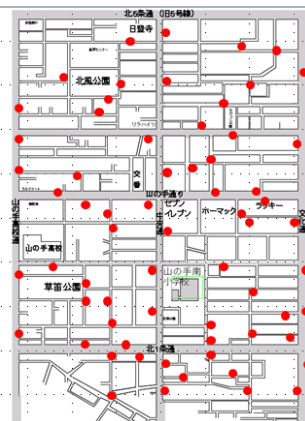
### ①消防のしごと

毎年度、札幌市の消防局から届けられる資料を補助資料として活用した。雪かきをしている写真、訓練の様子など価値の高い資料が豊富にある。



### ②校区にある消火栓の分布図

校区の消火栓の分布図では数はもちろん、計画的な消防施設の配置がみえる。数や散らばりの意味を前時に丁寧に扱った。



### ③消火栓にかけられたお礼の札

消火栓の除雪を通じた消防署と、市民とのつながりがみえる資料。追求の視点を消防士から市民へと切り替える時に使用した。

